（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援　ホッパス			
○保護者評価実施期間	令和7年7月1日	～	令和8年3月20日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	15名	（回答者数）	12名
○従業者評価実施期間	令和7年7月1日	～	令和8年3月20日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	5名	（回答者数）	5名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月23日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	事業所と保護者間のコミュニケーションが積極的に図れている。利用者、保護者の意見や意向を把握した上で支援や援助が実施できている。	保護者やご家族とできる限りコミュニケーションの場を多く設け、日頃の些細な困り感や育児への不安など時には親目線でアドバイスやサポートを行っている。また、丁寧な対応に努め、相談しやすい環境作りに取り組んでいる。	今後も丁寧な対応に努め、利用者、ご家族と意思の疎通が図っていけるように取り組んでいく。些細な相談や困り感に耳を傾け、課題を共有し必要な時は保護者や家族を含めてサポートを行っていく。また、職員間の連携や些細な事でも共有できる職場環境を整えていく。
2	ご利用者個々に合わせた統一した支援が実施できている。	風通しのいい職場環境作りに努め、日頃から職員間の意思疎通、意見共有を行うことできめ細かい統一した支援が行えている。	今後もご利用者の特性や性格、年齢、性別などに配慮し、個々の成長や将来を見据えた支援を実施していく。
3	居室などの室内環境が整っている。	ご利用者が活動しやすい環境作り、室内環境を生かした活動、カームダウンなど場面や状況に合わせた個室やスペースを活用することで活動の充実に繋げている。	今後も特性や年齢に合わせた居室活用、必要に応じてレイアウトの工夫などを行いながら、個々のご利用者が活動を行いやすい環境作りを実施していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所内での電子化が遅れており、職員の負担や業務の改善が望まれる。	システムの導入費用面と業務の効率化をいかに効率的に図っていくかが課題。	システムや職員の時間的効率化を図れるツールなどの導入を検討していく。
2	学童との連携がなかなか図れていない。	学童との連携を図りたいが、事故やケガ、トラブルが発生した時の所在や責任など、細かい連携が必要だと思われ実施できていない。	事業所単体では学童と連携は難しい部分もあり、地域の事業所と連携して、学童との交流を図るなどを検討していく。
3	第三者評価の実施	第三や評価の依頼が難しい状況	今後は必要に応じて第三者評価の導入を検討していく。